

高齢者雇用フェスタ2009でJILPTブース出展

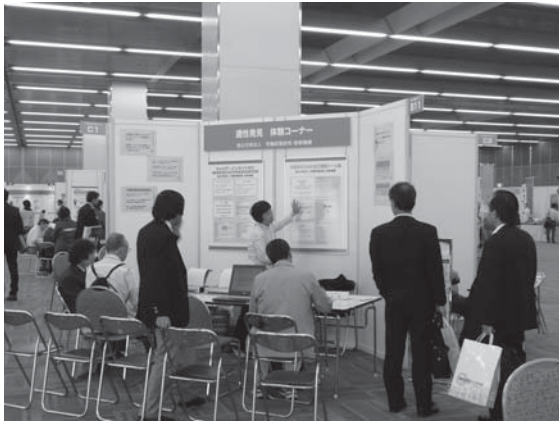
「適性発見 体験コーナー」

キャリアガイダンス部門統括研究員 西村公子

(独)労働政策研究・研修機構キャリアガイダンス部門では、プロジェクト研究の中で、中高年齢者を対象としたキャリアガイダンスツールの開発に係る研究を進めている。

人口減少下において、意欲と能力のある限り働き続けることができる社会の実現は労働政策上の最重要課題の一つであるが、労働市場における中高年齢者の状況は厳しい。またこれから団塊の世代の後半層が定年を迎える。定年後のキャリアをいかに生きるかを考えている方も多いことであろう。

このような中高年齢者のキャリア形



パネル1 キャリア・インサイトMC

—ミッド・キャリア層のためのキャリア・ガイダンス・システム—

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

キャリア・インサイト MCとは?

- コンピュータによる総合的なキャリア・ガイダンスシステムです。
- 30歳代後半～60歳代で職業経験のある方を対象としています。

システムの特徴

- 職業選択のために必要な4つの機能が用意されています
- 操作がわかりやすく、簡単に使えます
- 自分のペースで回答できます
- 結果がすぐわかります

システムの機能

- 適性診断(能力・興味・価値観・行動特性)
- 総合評価(能力・興味と職業との相合)
- 職業情報(仕事の内容等の情報提供)
- キャリアプランニング

システムの機能

能力評価

システムの機能

キャリアプランニング

システムの特徴

メインメニュー画面

1 出展内容

(1) キャリア・インサイトMCは、若年キャリア・インサイトMCは、若年

成を支援するツールとして開発したキャリア・インサイトMC(ミッド・キャリア)と、最終開発段階にある中高年齢者のための自己理解ツール集を持ち、キャリアガイダンス部門は、10月1日(木)に東京・後楽園の東京ドームシティ・プリズムホールで開催された高齢者雇用フェスタ(主催…(独)高齢障害者雇用支援機構、(社)東京都雇用開発協会)に、体験型ブース「適性発見 体験コーナー」を出展した(写真)。出展は昨年度に続いて二度目である。

システム全体は、「適性診断コーナー」、「総合評価コーナー」、「職業情報コーナー」、「キャリアプランニング」の四つの主要な機能で構成されている。システム全体を利用するには1時間～1時間半程度かかることから、短い時間で多くの来場者に体験して頂くために、高齢者雇用フェスタでは、適性診断コーナーの中から、職業能力の評価、職業興味の評価を

者(一八～三四歳)向けのキャリア・インサイトとほぼ同様の構造を有しながらも、就業経験のある成人層(三五～六〇歳代)を対象としたC A C G s (Computer Assisted Careers Guidance System)である(パネル1参照)。キャリア・インサイトのデザインを全面的に改訂し、中高年齢者用に操作性を高め、一部の尺度を就業経験者向けにしたシステムであり、CD-ROMをハローワークに配付し利用に供している。

2 体験者
ブースにはパソコンを二台用意し、両検査を1時間半ずつ交替で、最後の1時間は両検査一台ずつというタイムスケジュールに従って、希望者に体験して頂いた。検査実施後、結果シートを打ち出して研究員が説明を行うことから、一人当たりの体験時間は短くとも三〇分はかかる。七時間の出展時間で体験者は二四人、二台のパソコン

中心に体験して頂いた。
(2) 中高年齢者のための自己理解ツール集
中高年齢者のための自己理解ツール集は、問題解決場面での行動から課業遂行基準を予測する管理機能行動目録、短期記憶、情報を保持しつつ別の情報の処理をする作動記憶、心の硬さ尺度の四検査が一つのCD-ROMに入ったCBT(Computer-based Testing)である(パネル2参照)。中高年齢者が再就職を考えるに当たって、自身の態度や職業的実績を振り返ったり、これから発揮できる能力を見積もる手掛かりを提供することを目的としており、第一次開発が終わり、現在システムの改修を進めている。高齢者雇用フェスタでは、第一次開発システムの中から、希望に応じて二種類を体験して頂いた。

パネル2 中高年のための自己理解ツール集

独立行政法人 労働政策研究・研修機構



仕事を調べるテスト（五〇・〇％）、職業能力を調べるテスト（四五・八％）が高位を占めた。自らの能力を認識し、どのような仕事ができるのかを客観的に知りたいという欲求は、中高年になっても、否

はほぼフル稼働の状態であった。

体験者は、六〇歳前半層が五〇・〇％、男性が七〇・八％、求職中の方が五四・二％であったが、七〇歳以上の方も一二・五％、在職中の方も三七・五％と、様々な方が興味をもって検査を体験されたことがわかる（図1）。

3 検査の研究開発
 体験者には、職業適性検査やコンピュータ版検査についてのアンケートにご協力頂いた。結果は図2、図3に示す通りである。

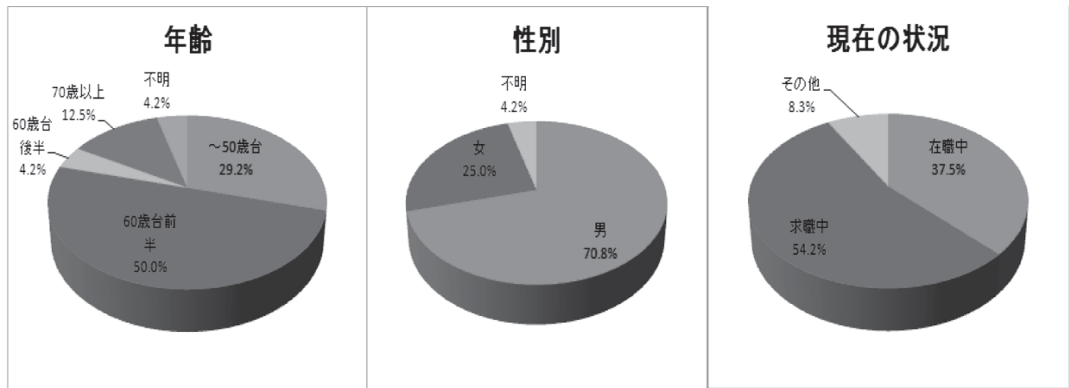
職業適性を知るためにあればよいと思うテストについては、自分にできる

ればこそ「再発見したい」という気持ちがあることが伝わってくる。また、コンピュータを使ったテストについても抵抗感がなかった。操作性のよい検査ならば、コンピュータを使って楽しみながら実施できるのではないかという実感を得た。

研究者が一般の中高年求職者等に直接接する機会が多いとは言えない。ブース出展は、一般の中高年求職者等の生の声を聞き、研究に活かすことが大きな目的であった。検査を体験しながら思わずもたらされる独り言や研究員との一対一の会話を通して、自らを確かめ、新たな自分を発見して、次のステップに希望をもって進んでいきたいという、誰もが持つ気持ちをひしひしと感じた。出展側の私たちこそが、大変貴重な体験をさせて頂いた。

この得難い体験とJILPTの開発する検査の責任の重さを胸に、人々に勇気をプレゼントする検査やツールの開発に取り組んでいきたいと考えている。

図1 検査体験者の属性（N=24）



内容の詳細は、JILPTのHPに掲載
<http://www.jil.go.jp/institute/seika/midcareer/index.html>

図3 コンピュータを使うテストについて（N=24）

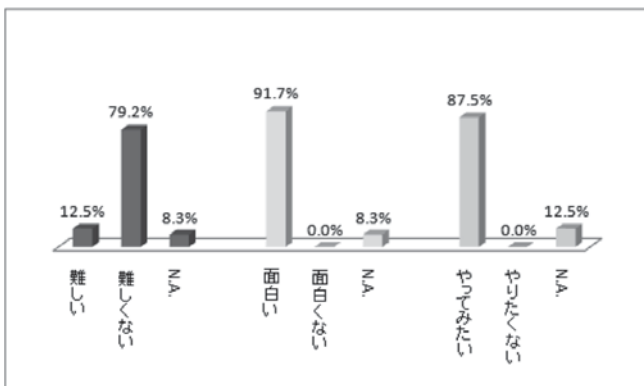


図2 職業適性を知るために、あればよいと思うテスト（M.A.）（N=24）

